

(5) 種子島地域

ア 概況

本地域は、県本土の南方約40kmに位置する種子島(445.05 km²)とその西方約12kmに位置する馬毛島(8.20km²)の2島からなっている。

行政区域については、種子島は西之表市、中種子町、南種子町の1市2町に分かれており、馬毛島は西之表市に属している。

イ 自然

種子島は、北北東から南南西に細長く伸びた中くびれの紡錘形をした島で、島内は丘陵性の山地が連なり、最高点も282mと比較的低平で、中部から南部にかけては、段丘台地が発達しているほか、島の南部海岸付近にはかなり広域にわたって沖積低地がみられる。

また、馬毛島は、最高点71mの極めて低平な島である。

気候は、黒潮の影響を受け、温暖であるが、台風常襲地帯にあたるので、農作物等の被害が大きい。

ウ 沿革

種子島は、いつ頃から人が住みついたか定かではないが、後期旧石器時代初頭には人が生活し、その文化は古代中国文化の影響を受けたかなり高いものであったことが推測されている。

昔の種子島は、「多禰島」または「多丈島」の字で表われ、大和国家との接触があったことが、日本書紀や古事記に残されている。また、この島の近海が我が国と唐との交流ルートの一つとなり、足利時代には明国との貿易に際して渡明船の造船基地、出帆基地として利用されたと伝えられている。

中世には、近衛家の荘園を経て鎌倉時代から明治維新まで約700年間は種子島氏の統治下におかれ、天正年間に島津氏の支配下に入った後も種子島氏による自治領的な形が保たれ、鹿児島本土との交流のみならず、畿内との交易をはかり直接中央文化の影響を受けて独自の文化、経済圏を形成した。この間、種子島では、天文12年(1543年)南蛮人の漂着により鉄砲が伝来し、元禄11年(1698年)には、琉球から贈られた甘しょが島主の勸農政策により栽培が奨励され、やがて全国に普及するなど、近代日本に多大な影響を与えた。

また、開田、製塩、製鉄方法の導入など諸般の施策が進められ、明治以降も第1次産業を中心とした島の振興が図られた。

行政面では、明治18～22年の間は屋久島とともに大島郡金久支庁の管轄となったが、明治22年に種子島郡役所が独立し明治29年に熊毛郡役所に改称、大正15年に郡役所の廃止により熊毛支庁の管轄となり、現在に至っている。なお、西之表村は大正15年に町制を、昭和33年に市制を敷き、中種子村は昭和15年に、南種子村は昭和31年にそれぞれ町制を敷いた。

種子島の人口は、平成22年国勢調査では、31,865人(西之表市16,951人、中種子町8,696人、南種子町6,218人)で、平成17年国勢調査より2,278人減少しており、減少傾向にある。

また昭和47年に本地域及び屋久島地域をもって設置された熊毛広域市町村圏協議会は平成23年度末に解散し、一部事務を種子島屋久島振興協議会へ引き継いだ。



エ 交通・通信

本土とを結ぶ交通体系については、鹿児島～種子島（西之表港）に高速船を含む定期航路があり、また鹿児島空港～種子島空港〔約35分、1日4便〕の定期航空路がある。

また、本地域と屋久島地域との間に定期航路がある。

航路現況

平成25年4月1日現在

航路	船舶名	航路距離(km)	所要時間	運航回数	トン数 (t)	旅客定員(人)	
鹿児島～西之表	プリンセスわかさ	118.0	3:30	1 / 1日	1,864	222	
	はいびすかす	115.0	3:40	1 / 1日	1,798	212	
	高速船 「トッピー」 「ロケット」	(直行便) (宮之浦, 指宿経由)	1:35 1:55～ 3:10	5 / 1日 1 / 1日	トッピー 2	163	263
					トッピー 3	164	238
					トッピー 7	281	259
ロケット	165	247					
西之表～安房		57.0	50	1.5 / 1日	ロケット 2	164	247
西之表～宮之浦		55.0	50	1.5 / 1日	ロケット 3	164	247
	はいびすかす					1:50	1 / 1日
島間～宮之浦	フェリー太陽	30.0	1:05	1 / 1日	499	100	

島内交通については、国道58号をはじめとして道路網はおおむね整備されているが、屈曲箇所、幅員狭小箇所も一部残る。

また、公共交通機関としてバス事業者の運行する定期路線バスがあり、併せて市町独自のコミュニティバスやデマンド型の乗合タクシーの運行もなされ、地域住民に不可欠な公共交通機関としてそれぞれ地域住民のニーズに応じた運行がなされている。

漁港については、浦田漁港ほか18漁港があり、これまでに漁船の安全接岸を図るための整備が進められてきた。

港湾については、重要港湾西之表港のほか地方港湾19港があり、逐次その整備が進められている。

空港については、平成18年3月16日に2,000mの滑走路を有する新種子島空港がジェット空港として開港した。

情報通信基盤については、種子島と本土の間は、海底光ケーブルが敷設されているが、種子島と馬毛島の間では、現在、通信サービスが提供されていない。西之表市では、平成22年度に国の補助事業を活用して馬毛島を除く市内全域に光ファイバ網が整備されているが、中種子町及び南種子町には、光ファイバによるネットワークは整備されていない。西之表市では光ファイバによる超高速ブロードバンドサービスが、中種子町及び南種子町ではADSLサービスが提供されている。ただし、ADSLサービスは、電話交換局からの距離が長いことにより、電気信号の減衰のため、本来のサービスが利用できない地区もある。

携帯電話については、サービスエリアになっているが、一部に不感地域が存在している。

テレビについては、地上波テレビ放送のデジタル化に対応するため、既存の共聴施設の改修やCATVのデジタル化対応を完了しているが、一部に「新たな難視」地区が発生しており、共聴施設の新設や高性能アンテナの設置等により、その解消に努めている。

新聞については、本土から直接船便で運ばれるため配達時間が午後になる。また、悪天候による欠航があった場合は、翌日以降まとめて配達される。

オ 社会環境

(ア) 水道・電気

水道については、ほぼ全戸に普及しており、西之表市では西京ダムの完成により、通常十分な水量が確保されることとなったが、干ばつなど気候に左右される課題がある。

また、既設地区においても施設の老朽化、水量不足等の課題がある。このため、引き続き施設の増補基幹改良等を行う必要がある。

電力については、島内の発電所により全地域に供給されている。

(イ) 廃棄物処理

ごみについては、西之表市と中種子町は一部事務組合で、南種子町は単独で焼却処理などを計画的に行っている。

また、し尿処理については、西之表市は単独で、中種子町と南種子町は一部事務組合により平成15年3月に設置された汚泥再生処理センターで、それぞれ計画的な収集処理が行われているが、西之表市のし尿処理場は老朽化が進んでおり、汚泥再生処理センターの整備を進めている状況である。

下水道については、これまでに雨水対策として都市下水路が6路線整備されている。

(ウ) 医療

医療については、平成25年3月31日現在、病院4施設、一般診療所7施設、歯科診療所12施設がある。眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科の専門医が非常に少ないため、県医師会及び鹿児島大学医学部の協力を得て巡回診療を実施している。そのうちの1つの診療所については、平成19年5月に島内唯一の産婦人科医院が診療停止を表明したことに伴い、1市2町で費用負担し平成20年1月、公立の産婦人科医院を設置したものである。

救急医療については、島内の医療機関で対応するとともに、県及び自衛隊のヘリコプター等により、鹿児島市の医療機関へ緊急搬送している。

(エ) 福祉

本地域の老年人口比率は、平成22年度に31.8%となり、急速な高齢化が進行しており、高齢者に対するサービスの向上が求められている。

老人福祉施設としては、西之表市に特別養護老人ホーム、介護老人保健施設及びデイサービスセンター、中種子町に特別養護老人ホーム、養護老人ホーム及びデイサービスセンター等、南種子町に特別養護老人ホーム及びデイサービスセンター等が設置されている。

また、在宅の要介護者等からの総合的な相談に応じる地域包括支援センターが各市町に設置されている。

このほかの社会福祉施設としては、保育所10か所（うち、へき地保育所2か所）、障害者支援施設2か所、障害福祉サービス事業所10か所などがある。また、中種子町及び西之表市においては、それぞれ保健センターが整備されている。

(オ) 公園

地域住民のスポーツ、レクリエーション需要の増大に対応して都市公園等の整備が図られている。

西之表市では、種子島で唯一のダムである西京ダム周辺に総合レジャー施設「あっぱ〜らんど」が整備されている。

中種子町においては、中種子中央運動公園が、また、南種子町では、宇宙ヶ丘公園やロケット打上げ見学所としての長谷展望公園等が整備されている。

(カ) 教育

本地域には、平成25年4月1日現在で、公立の小学校27校、中学校3校、高等学校2校、特別支援学校1校が設置されているが、児童生徒数が年々減少の傾向にある。

なお、高校については、県の「かごしま活力ある高校づくり計画」により、平成18年4月に西之表市の2校が1校に、平成20年4月に中種子町、南種子町の2校が1校に統合された新設高校が開校し

ている。

カ 産業

(ア) 第1次産業

本地域の第1次産業従事者は31.3%と高い割合を占めている。

農業については、温暖な気候と平坦な畑地に恵まれ、さとうきび、さつまいも等の畑作物や、肉用牛、酪農等の畜産に加え、早出し産地としてのばれいしょ等の輸送野菜、米及び茶に加え、葉たばこ、マンガー、かごしまブランド産品であるレザーリーフファン等の生産振興が図られている。

農産物加工については、さとうきびを原料とする黒糖や、さつまいも、赤米等の地域特産物を利用した菓子等の製造が行われている。

台風等の自然災害の軽減、シカ等による農作物被害の防止、予冷施設等の整備、流通コストの低減、農業従事者の高齢化に伴う担い手の確保等の課題が残されている。

これまで農道整備、区画整理等の生産基盤整備が進められており、整備水準について、農道整備は県平均を上回っているが、畑地かんがいやほ場整備、農地保全では県平均を下回っている。

林業については、森林面積のほとんどが民有林で広葉樹林が多いが、内陸部には、まとまりのあるスギ人工林地帯が形成されており、その大部分は除間伐の必要な森林である。主な林産物としては、チップ用材、建築用材があるが、たけのこ、しいたけのほか、つわぶき等の山菜類が生産されている。

水産業については、漁船はほとんどが5トン未満で経営規模は零細であるが、周辺海域にキビナゴ、トビウオ、イカ類、イセエビ、トコブシ、瀬物等の好漁場を有しており、漁港及び関連施設の整備と相まって沖合漁場へ進出する傾向もみられている。しかしながら、水産資源は減少傾向にあり、魚価の低迷、後継者不足等の課題も依然として残されている。

(イ) 第2次産業

公共土木を中心とする建設業のほかに主な製造業として、さとうきびを原料とする製糖工場、甘しょを原料としたでん粉精製工場、ロケットの固体燃料充填工場がある。このほか地場産業として農水産物加工の食料品製造業、窯業のほか、焼酎や種子鉄等の特産品の製造業などがあるが、そのほとんどが小規模の零細企業である。

(ウ) 第3次産業

地域の中心である西之表市に商業、公務等の集積がみられるほか、ホテル等の観光関連産業等の発展がみられる。

観光については、豊かな自然に加えて、種子島宇宙センター、鉄砲伝来の地等特色のある観光資源を有しており、また、サーフィン、ダイビング、シーカヤックなどのマリンスポーツに適した地域としての評価も定着してきている。

今後とも、本地域への誘客につなげるため、特色ある観光資源を生かしながら、体験型プログラムの開発・充実や観光ルートの整備などを進め、滞在交流型観光を推進していく必要がある。